

黒龍江省ハルビン出張・会議・視察報告

ERINA 経済交流部交流推進員
蔡聖錫

1. はじめに

2017年6月14～15日、ERINA と学術交流に係る協定を締結している黒龍江省社会科学院の要請で、「『一帯一路』の建設と黒龍江省の全面的振興発展推進ハイレベル国際フォーラム」に参加するた

め、黒龍江省のハルビン市を訪れた。併せて、同時期に開催された第4回中口博覧会、第28回中国ハルビン国際経済貿易商談会を視察した。

◎期 間：平成 29 年 6 月 14 日(水)
～ 6 月 15 日 (木)

◎訪 問 地：黒龍江省ハルビン市

◎訪 問 者：ERINA 代表理事・河合正弘、ERINA 経済交流部経済交流推進員・蔡聖錫

◎主要日程：
6 月 14 日 (水) ハルビン市着

6月15日(木)「『一帯一路』の建設と黒龍江省の全面的振興発展推進ハイレベル国際フォーラム」参加、第4回中口博覧会、第28回中国ハルビン国際経済貿易商談会を視察

6月16日(金)ハルビン市発

2. 「『一帯一路』の建設と黒龍江省の全面的振興発展推進ハイレベル国際フォーラム」

2017年6月15日、黒龍江省ハルビン市の友誼宮ホテルで「『一帯一路』の建設と黒龍江省の全面的振興発展推進ハイレベル国際フォーラム」が開催された。黒龍江省社会科学院が主催する当フォーラムには、日本、中国、韓国、ロシア、モンゴルの5カ国から行政、経済団体、研究者、企業等の関係者が計120人余り集まり、国家プロジェクトである「一帯一路」政策に基づいて、黒龍江省の地域発展及び北東アジア周辺各国との経済連携について各代表者から発表が行われた。開幕式では中国黒龍江省宣伝部の楊殿軍副部長、中国社会科学院の韓大川副秘書長、中露友好協会の Ostrovsky Andrey Vladimirovich 副主席、在瀋陽日本国総領事館の石塚英樹総領事、駐瀋陽韓国総領事館の申鳳燮総領事、モンゴル国科学院の B.Avid 学術秘書長、黒龍江省社会科学院の武鳳呈書記から歓迎・来賓の挨拶が行われた。次の基調講演では ERINA の河合代表理事、中国商務部国際貿易経済合作研究院の李光輝副院長、ロシア・アムール大学の Prikhodko 学長補佐、北東アジア地域自治体連合 (NEAR) の洪鐘慶事務総長、モンゴル国科学院国際関係研究所の J.Bayasakh 所長、中国外交学院の江瑞平副院長、中国黒龍江省黒河市の趙起超副市長、中国黒龍江省綏芬河市の王興柱市長が講演した。

ERINA の河合代表理事は「日中韓経済の国際相互依存と経済協力の可能性」をテーマに、近年の日中韓の旅行客

フォーラムの会場



会場の外部



数の推移、輸入出貿易額、直接投資金額のデータに基づき、日中韓経済連携、日中韓 FTA、RCEP、中国東北地方の役割と政策等について講演した。

上記のほか、当フォーラムでは中国社会科学院、遼寧社会科学院、吉林省社会科学院、黒龍江省社会科学院、内モンゴル社会科学院、吉林大学、黒龍江大学等の国・地域のシンクタンク・高等教育機関の教授・研究者から、一帯一路計画、地域経済、地域産業発展、国際協力、国際物流等を中心に発表および議論が行われた。

3. 第4回中口博覧会、第28回中国ハルビン国際経済貿易商談会を視察

第4回中口博覧会と第28回中国ハルビ

ン国際経済貿易商談会は中国商務部、黒龍江省人民政府、ロシア連邦経済発展省、ロシア連邦産業通商省が主催して、6月15～19日の間に中国黒龍江省ハルビンで共同開催された国際的総合的な博覧会である。

中口博覧会は、2013年に開かれた中口首脳会談で両政府が合同で開催することが決定された。2014年の第1回目、2015年の第2回目はハルビンで、そして2016年の第3回はロシアのエカテリンブルクでの開催を経て、2017年の第4回目は再びハルビンで開催した。ちなみに、第3回目以降は中口間の協議により両国が交代で開催する事になり、中国側はハルビン市を中口博覧会の永久開催地に指定した。中国ハルビン国際経済貿易商談会は1990年から開催し、今年で第28回目の開催となった。

新潟市のブース



ロシアのブース



会場ではロシア企業・団体のブースが多く見られたほか、韓国、日本、タイ、マレーシア、ラオス、パキスタン、オーストラリア、フランス、ブラジル等の計42カ国から317社の企業が参加した。中国国内は、北京、上海、香港特別行政区、マカオ特別行政区等の計31ヵ所の地方から約900社の企業が参加した。日本からは、新潟県、山形県、北海道、岩手県等地方自治体、企業、経済団体ら33の機関が参加した。ちなみに、会場では北朝鮮企業のブース

も見られた。出展品目に関しては、鉄道、農業機械、電子機器、金属部品、繊維製品、アパレル製品、プラスチック製品、IT製品、日用雑貨、介護サービス、金融サービス、建築業、観光業、不動産等があり、非常に多岐に渡った。

4. おわりに

視察を通じて、改めて中ロ貿易におけるハルビン市の重要性について実感するこ

とができた。ロシア側の2015年の貿易統計によれば、中国への輸出は286億ドルで第2位、中国からの輸入は349億ドルで第1位であった。中国側から見ると、ロシアは第16位の輸出国、第11位の輸入国であった。相手国が自国の貿易全体に示す割合は多少異なるが、互いに重要な貿易パートナーであることに変わりはない。特に黒龍江省はロシアと隣接していることから、対ロシア貿易は非常に重要な位置を占めている。黒龍江省の2015年度の貿易統計では、対ロシアの輸出と輸入の合計額は108億ドルで、中国の対ロシア貿易全体の16%を占めた。今後、黒龍江省の方針としては、中ロ博覧会をハルビン市に誘致したこともあり、ハルビン市を中国における対ロシアビジネスの中心地に成長させようとする意向がある。しかし、それを実現するには課題も大きい。まずは、対ロシア貿易の取引金額は大きいものの、輸入に偏りすぎた構造になっていることだ。例えば、2015年の対ロシア貿易の輸出、輸入額はそれぞれ24億ドル、85億ドルで貿易収支はマイナス61億ドルとなっている。次に、輸入品目が偏っている問題もある。上記の85億ドルの輸入品の中で、石油が68億ドルで約全体の8割を占めている¹。ロシアから見れば黒龍江省からは輸入するものがないのかも知れない。ちなみにロシアの輸入の多くは上海とその周辺地域（長江デルタ）からで、2015年の同地域からの輸入金額は91.7億ドルであった。今後、黒龍江省は「エネルギー中継地」から脱却し、上海等の製造業先進地域と肩を並べるような対ロシア貿易の主要プレイヤーになるために、時間と努力が必要になりそうだ。

¹ 2010年からロシアが中国に対してパイプラインにより石油供給が始まった。